

みんなの平谷川

遠矢萬理、長谷川智子、上野文隆、村田和子（平谷川市民研究所）

<ニュータウンを流れる人口の川>

平谷川は、三田市北摂ニュータウン・ウッディタウンのほぼ中央を流れる人工の川である。

ニュータウン開発時に、もとの川筋から20メートル嵩上げして作られた。3面コンクリート張り、河床部は御影石を敷いている。長さ2キロ弱、流域面積2.46㎢、治水の面から洪水の恐れはまずないが、濁水の対策として、流域には11箇所の雨水貯留システムが設けられていて、毎秒20～30リットルの放流がある。中洲や滝が作られて、町に住む人の憩いの場となるように設計された。



1995年に親水公園として整備を終えた平谷川緑地公園が開放され、その前後に多くの入居者が町に暮らし始めた。川にはだんだんと草木が育ち始め、浅くて安全な川で子どもたちは水辺を楽しみ、虫や水の生き物に触れて成長した。たくさんの人が川岸の散策を楽しみ、桜並木は市外からも人が訪れる場所になった。私たち住民は、川の恩恵を受けて暮らしてきた。

公園を含む流域の緑地は、約8万3000㎡あり、県からの委託を受け三田市が管理をしている。広大な緑地管理は難しく、河床部に生えた木は伐採・間伐の手が回らないまま放置され、大木となり、倒木の危険が出てきた。除草が出来ず枯れていく雑草や、落ち葉、上流の開発から出る土砂の堆積で、流れが細くなり、澱みができ蚊が大量に発生することもあった。

育ってきた川は、私たちが親身になって気にかけていない間に手に負えない一面も持つようになった。既に形成された生態系を維持しながらも、ニュータウンにある里地・里山として維持管理する必要に迫られている。

<私たちの活動>

平谷川市民研究所の活動の原点は、流域の町ゆりのき台の地域活動協議会の事業にある。ゆりのき台地域活動協議会は、三田市の委託を受けて、ゆりのき台の全戸を対象にしたまちづくり協議会である。2019年に複数の住民から「桜並木が傷んでいる。今のうちにどうにか出来ないだろうか。」との相談があった。そこで、桜並木だけではなく、平谷川一帯はどうなっているのかを知ることから始めようと、人と自然の博物館の高田知紀先生に相談しながら、平谷川を知る活動「平谷川を楽しもう」を始めた。

2020年から始めた「平谷川を楽しもう」では、開発前のニュータウンの姿や歴史、緑地の植物や昆虫、鳥、川の中の生き物など、町に住む人のそれぞれの興味のあることで平谷川と関わる活動を広げてきた。もう少し活動を深めていきたいと考えていた時に、それぞれの活動を深める市民研究所を作ってみてはと、高田先生からアドバイスを受け、2022年9月に研究員の募集を行い、平谷川市民研究所がスタートした。

小学生から70代まで年齢も興味もさまざまな中、それぞれが何がしたいか、平谷川をどのように見ているかのミーティングを持った。

外来種植物の繁茂が気になる、昆虫採集に入りたいが草丈が高すぎて活動しにくい、以前のように水辺が見える綺麗な景観を取り戻したいなど様々な意見が出た。そして、共通する思いは、川と親し

み、安全で過ごしやすい場所であるように自分たちの川は自分たちで整備して守っていくのが良い、川的环境整備をみんなで進めていくことにした。

現在は、ゆりのき台に限らず、ウッディタウンのけやき台、あかしあ台、すずかけ台からも活動に参加がある。

<2023年度から2025年度の3年間の活動>

探鳥会3回（かわせみの会の指導で）

昆虫観察会2回（小中学生研究員による企画運営）

ネイチャーゲームと川の生き物調査2回（兵庫県環境
カウンセラー西谷寛氏）

植物観察会3回（人と自然の博物館小舘誓治先生）

クリーン作戦5回（冬の間伐作業3回 バイオマス設
置(資源の再生) オオキンケイギク除草2回)

平谷川に道を作ろう（川へのアプローチの場所を作る。）

お清水広場の池をビオトープにしよう（モニタリング開始）

他に、ミーティング、ワークショップを実施し、2025年4月には7日間ウッディタウン市民センターで活動の展示を行った。参加者は、延べ約250人。



<ゆりのき台小学校3年生の環境学習との連携・協働>

3年生は、環境学習の場として4年前から平谷川の学習を進めている。春と秋のフィールドワークへの参加、平谷川と地域の関わりとの講師としての授業への参加など、年間を通して3年生と活動をしている。クリーン作戦で間伐した枝を片付ける作業は、3年生が担ってくれている。年齢や立場を問わず、今の自分たちが出来る平谷川への関わり、地域貢献を共に考えることができる。

<これからの活動>

2025年10月に「第17回いい川・いい川づくりワークショップ in ひょうご神戸」に参加し、入賞「平谷川への感謝でこれからも地域と人を育てていくで賞」をいただいた。

一つ一つの活動を楽しんで企画する人、参加する人を増やし、多くの人に平谷川を知ってもらい、自分たちの町の価値ある財産として大切にしていきたい。

そのためには、環境整備やお清水広場ビオトープ計画などのチームを作り、より深く一つの活動に関わることを目指す。

他方、探鳥会や動植物の観察会など、いつでも誰でもが参加して楽しめる企画も行うことで、活動が広がりを持てるようにしていきたい。

それぞれの活動のなかで、人のつながりができ、自分とは違う視点も受け入れ、自分たちの町は自分たちで世話をしようというまちづくりにつながることを、平谷川市民研究所の目指すところである。

